

## ■ 教育目的

薬物治療に対して責任の一端を担える臨床薬剤師を養成するため、その基盤となる専門的スキル(情報検索、病態評価、薬物動態評価、文献評価)を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、YD-④、YD-⑥】

## ■ 学習到達目標

1. 医薬品に関する種々の情報を適切な情報源から入手できる。(知識・技能)
2. 生理機能や血液、尿検査等の臨床検査データから患者の病状を正確に把握できる。(知識・技能)
3. 血中薬物濃度データをもとに患者に個別化した用法・用量を提案できる。(知識・技能・態度)
4. 専門的な視点から医薬品情報を評価、整理、加工、伝達できる。(知識・技能・態度)
5. 症例をもとに薬物治療の評価を行うことができる。(知識・技能・態度)

## ■ 準備学習（予習・復習）

予習：実習書の内容について予習するとともに、各項目について課せられた宿題を行う。(40分以上)

復習：提出したレポートを再度確認し、理解を深める。(20分以上)

## ■ 授業形態

課題解決型学習、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク

## ■ 授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	医薬品情報検索 1	PubMed 検索	E3(1)-②・③、F(3)-②
2	医薬品情報検索 2	三次資料と電子化情報源	E3(1)-②・③、F(3)-②
3	臨床検査データの解釈 1 A	臨床検査値の解釈と評価 1：症例をもとに考える	E3(2)-①、F(3)-①・④
4	臨床検査データの解釈 1 B	バイタルサインチェック、フィジカルアセスメント	E3(2)-①、F(1)-①、F(3)-①
5	臨床検査データの解釈 2	臨床検査値の解釈と評価 2：症例からプロブレムリストを作成し、症例解析を行う	E3(2)-①、F(3)-①・④
6	臨床検査データの解釈 3	臨床検査値の解釈と評価 3：SOAP を用いた症例解析	E3(2)-①、F(3)-①・④
7	薬物動態解析・TDM 1	投与設計、治療薬物モニタリングと SGD	E3(3)-⑤、E4(2)-②、F(3)-③・④
8	薬物動態解析・TDM 2	血中薬物濃度データの解析とシミュレーション	E3(3)-⑤、E4(2)-①・②
9	文献評価	臨床研究論文の批判的吟味と SGD	E3(1)-④～⑥
10	医薬品評価	医薬品評価と SGD	E3(1)-③・⑥・⑦、F(3)-②
11	総合実習	症例解析による評価と SGD	E2(11)-①、E3(2)-②、F(4)-①

## ■ 授業分担者

植沢 芳広、蒲生 修治、榎山 暁史、小林 カオル、佐藤 光利、花田 和彦、廣瀬 誠、前田 英紀、若林 朋子、宮嶋 篤志、高橋 雅弘、峰岸 元気、山室 大介、渡辺 史也

## ■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

適宜、解説等によるフィードバックを行う。

課題・レポートの内容等(60%)、実習試験(40%)に基づいて総合的に評価する。

## ■ 参考書

「Drug Information: A Guide for Pharmacists」(McGraw-Hill)

「フィジカルアセスメントがみえる」(医療情報科学研究所)

「臨床薬物動態学：薬物治療の適正化のために」(丸善)